

## 充実してきた国産EV、日本でEV普及は進むか

### ◆日産自動車と三菱自動車が軽自動車のEVを発表

2022年5月、日産自動車と三菱自動車は、共同開発した軽自動車のEV（電気自動車）を発表した。三菱の水島工場で生産し、日産は「サクラ」、三菱は「ekクロス EV」という車名で22年夏から販売を開始する。価格は230～290万円程度と軽自動車としては高額であるが、国や地方自治体の補助金を活用すると、150万円以下で購入できる可能性がある。フル充電での航続可能距離は約180kmと従来のEVに比べて短い。両社によると、軽自動車は地方で日常の移動手段として利用されることが多く、航続距離の短さは大きな問題にはならないとしている。また、ガソリンスタンドの減少が問題となっている過疎地域などでは、家庭で充電できる点がEVのメリットとなる。

本田技研工業も軽自動車のEVを24年に発売すると発表している。これまで国内で発売されているEVは400万円を超える価格帯であったが、低価格帯の軽自動車EVの車種が充実してくれば、国内でEVの普及が進む可能性がある。



日産「サクラ」(左)と三菱「ekクロス EV」(右)  
(出所) 両社のプレスリリース

### ◆SUBARUは国内初となるEV専用工場の建設を発表

22年5月、SUBARUは27年の稼働を目指し、群馬県にEV専用工場を建設すると発表した。国内でEV専用工場の建設が発表されるのは初となる。既存のガソリン車工場も改修してEV生産ラインを追加し25年に稼働開始をする計画で、合計でEV生産に2,500億円を投資する。SUBARUは、5月にEV「ソルテラ」を発売したが、生産はトヨタ自動車の工場で行っており、自社工場でのEV生産に踏み切る。

国内で購入可能な国産EV乗用車（価格帯順）

	車名	価格帯	フル充電での航続可能距離
トヨタ	bZ4X	600～650万円	540～560km
SUBARU	ソルテラ	590～640万円	490～570km
レクサス	UX300e	580～640万円	約370km
日産	アリア	530～660万円	約470km
Honda	HONDA e	450～500万円	260～280km
マツダ	MX-30	450～500万円	約260km
日産	リーフ	410～480万円	280～460km
日産	サクラ	230～290万円	約180km
三菱	ekクロス EV	230～290万円	約180km

※法人向け・リース専用車、小型EVなどは除く

（出所）各種資料よりARC作成

◆新燃費基準はEVに追い風か向かい風か

国内の自動車メーカーがEV開発に力を入れている背景の一つに、20年3月に発表された新たな燃費基準がある。新燃費基準は、30年度までに16年度比で32.4%の大幅な燃費改善を求めている一方で、日本の燃費基準はCAFE（企業別平均燃費）方式が採用されているため、全車種で燃費を改善する必要はなく、例えばEVのような燃費の良い車種を多く販売すれば基準を達成できることになる。

新燃費基準は、初めてEVとPHEV（プラグイン・ハイブリッド車）も対象となったほか、WtW（Well to Wheel：油田から車輪まで）の考え方が世界に先駆けて採用された点が特徴となっている。一般的な燃費基準であるTtW（Tank to Wheel：燃料タンクから車輪まで）では、自動車自体の燃費性能が評価されるのに対し、WtWではガソリンや電力などが車両に供給される前段階の発電・送配電効率なども燃費の評価に考慮される<sup>1</sup>。

WtWは総合的な視点でガソリン車とEVを比較し、真に環境に良い自動車を判断できるというメリットがある。一方、自動車メーカーの開発努力の範囲外の上流のエネルギー効率が換算されること、TtWに比べてEVの環境性能が相対的に低く算出される可能性があることなどが課題とされる。このため、メーカーのEV開発インセンティブが低下し、世界的なEV開発競争に取り残される懸念もある。

日本のEV普及率は1%弱と、欧州（約6%）、中国（約5%）、米国（約2%）と比べて低いですが、今後、この状況が変化していくのか注目される。 【今村弘史】

<sup>1</sup> 海外での燃料採掘や燃料輸送時などのCO<sub>2</sub>排出は考慮せず、燃料輸入後の国内のエネルギー効率のみを換算する。